



特集

トライバルラグを織る人々

榊 龍昭

写真：榊 龍昭 村山和之

敷物だけでなく、袋物・掛け布・寝具・揺り籠・祈祷用と、自ら織った毛織物を生活のあらゆる場面で使う西南アジアの遊牧民。その織物について、今回榊龍昭さんにご紹介いただきます。

第1章 トライバルラグー部族の毛織物ーとは

遊牧生活と毛織物（遊牧という生活）

西南アジアの遊牧民と民藝に詳しい松井健先生は遊牧民を「二年の定期間簡単な持ち運びのできるテントのような住居に住んで、家畜とともに移動し、家畜を中心とするその牧畜生産物によって、おもに生計をたてている人たち」と定義されています。

遊牧民は英語では一般に「ノマド」と訳され、ブランド名や車名としても使われたりするほどロマンの香りあふれる言葉です。

しかし実際の「ノマド」とは、「遊動」を意味する言葉のようでヒツジ・ヤギ・ラクダ・牛・馬・トナカイなどの動物を家畜化する遊牧生活は、「パストラリズム」のほうが適切なようです。

草食動物を家畜化し、乳やその加工品・肉などを利用し、経済活動に結びつける人たち、すなわち遊動と牧畜の両方を行う人々が本来の遊牧民といえそうです。

食料となる羊や山羊をたくさん飼っていても、それらの肉を常食とすればとたんにバランスが崩れしもう、遊牧民研究の先駆者である梅棹忠夫氏は、羊などの家畜を、銀行に預けた元金であるという、わかりやすい例で説明されました。

ヒツジを毎日食べ続ければいつか残高はゼロになりますが、乳製品や羊毛は利子のようなものなので、元金を残したままで生活が続けられます。

その他にも家畜の毛・毛皮・肉・骨などのあらゆる素材は彼らの収入源で、それらを町に定住する人々とバザール（市場）で交換します。

特に質の良い羊毛とチーズ、バター、ヨーグルトなどの乳製品は人気があり、丁寧に織られた絨毯やキリムも高い価値があります。

生活に欠かせない毛織物、たとえば婚礼の際の持参品となる敷物や袋物は、商品として彼らの生活を支える大切な手仕事です。

榊 龍昭（さかき たつあき）プロフィール

トライバルラグとテキスタイルの専門店「Tribe」を主催。20代で絨毯に出会い、その後戦禍のイランを訪問。トルクメン族の青年との出会いをきっかけに遊牧民の絨毯（トライバルラグ）を知る。現在は世界各地の先住民族の染織品の研究と展示販売を行う。

イラン北東部 ホラサーン地方のクルド族の家族

